

県民センター2年間の活動と課題

第1 2年間の活動

1 取り組んだ課題

- ・避難所問題～環境、食事、車中生活、PTSD等
- ・仮設住宅問題～結露、バリアフリー、追い炊き、住み替え問題等
- ・生活保護義援金収入認定問題
- ・労働問題～コロナ、ソニーの勝利的解決
- ・水産特区問題～2011年7月に石巻で集会、県漁協との連携
- ・女川原発問題～再稼働阻止運動・署名（目標30万筆）
- ・福島原発放射能被害賠償問題～県民センター内に相談窓口設置、農民連、民商、弁護士。中間指針問題で対政府交渉。
- ・医療・介護自己負担減免継続・復活の取り組み
- ・メディカルメガバンク問題～全県自治体に意見書送付、対県教育次長交渉等。対知事公開質問状準備。
- ・名取カジノ問題
- ・TPP阻止運動～TPP宮城ネットの立ち上げ、街宣、集会、デモ。JA、生協等との連携。
- ・住まい、街づくり問題～経験交流会、現地相談会、ネット立ち上げ等
- ・被災三県交流
- ・2011、2012県内で全国交流集会開催

2 とりくみの視点

- ・「創造的復興」という名の新自由主義とのたたかい
- ・被災地・被災者を主人公とした復旧・復興
- ・日本国憲法（13条、25条等）にもとづく権利としての復旧・復興

- ・従来の県政の問題点を明らかにし、県民が主人公の県政再建へ
- ・復興を妨げる国家政策（原発再稼働、TPP、消費税等）とのたたかい
- ・復興のための県民の共同のたたかいの拡大

3 成果、到達点

- ・農民連、肉牛を中心に多額の賠償を勝ち取った。
- ・中間指針に宮城県の農林水産物が全部入った。
- ・女川原発署名、女川町に現地入りし、町民の過半数の署名を集めた。
- ・水産特区問題、TPP問題に取り組むなかで、県漁協、JAと連携、共同のたたかいが可能になった。
- ・医療・介護自己負担減免継続のたたかいでマスコミから一定の評価を受けている。
- ・2013年3・16シンポ1000人の参加で大成功

4 問題点

- ・議会中心のたたかいだった。県民への働きかけ、動員の弱さ
- ・仙台中心の活動で、仙台以外の動向の把握が弱い
- ・被災者の復旧・復興の基本である住まいの問題、街づくり問題への取り組みが決定的に弱い。
- ・目の前の課題に追われ、中長期的展望を検討できなかった。
- ・過去の震災との連続性の観点弱い
- ・県民にどれだけ情報が伝わっているか
- ・マンパワー不足、高齢化
- ・組織運営問題：世話人会、事務局会議への参加弱い
- ・加盟団体の「内なる風化」現象

第2 課題

- 1 研究者との連携～シンクタンクの立ち上げ
- 2 事務局体制の強化～常勤者の確保
- 3 財政強化
- 4 世話人会、事務局会議の機能強化
- 5 県内各地に拠点を作る
- 6 情報活動の強化